

【国語科】

論理国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第3学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	新 論理国語（三省堂）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	「7 具象と抽象の関係を理解するために」	・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。 ・ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。 ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。
	5		
	6		
前 期 期 末	7	「8 批評するために」	・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深める。 ・ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使う。 ・ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。 ・ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫する。
	8		
	9		
学 年 末	10	「9 情報を関連づけ自分の解釈を形成するために」	・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深める。 ・ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使う。
	11		
	12	「10 解釈を広げたり深めたりするために」	・ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・ 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。 ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。
	1		

考查の実施	年3回実施（前期中間・前期期末・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「プレゼミ総合国語」（浜島書店）			

【国語科】

国語表現

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第3学年（進学コースのみ選択者）
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	国語表現（大修館書店）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○小論文・レポート入門	○ 小論文の基本的な書き方や意見の筋道を立てて書くことを理解する。
	5		○ 原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。
	6	●表現への扉③	○ 反論を想定して書くことの意味や構成を理解し、それに沿って小論文を書く。 ○ 文章の要旨をつかむための方法を理解する。 ○ 資料を読み取ったことをふまえて論点を整理し、小論文を書く。 ○ レポートの基本的な書き方を理解する。 ○ 客観的な根拠を集めて説得力のあるレポートをまとめる。 ○ 引用の方法、参考文献や注の示し方を理解する。 ● 小論文に関する文章や資料を読み、表現活動の参考にする。
前期 期末	7	○自己PRと面接	○ 経験からえたことや学んだこと、自分の長所などを考える。
	8		○ 他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。
	9	●表現への扉④	○ 自分の特長を端的に表現し、印象に残る自己PRの原稿を書く。 ○ 事実や出来事をふまえて、効果的な自己PRをする。 ○ 調べたことをふまえて、説得力のある志望理由を書く。 ○ 具体的で要素の関連性を重視した書類を適切な言葉づかいで書く。 ● 自己を見つめることに関する文章や資料を読み、表現活動の参考にする。
後 期	10	○会話・議論・発表 スピーチをしよう～ プレゼンテーションの工 夫	○ 話すことの順序を考えて、わかりやすいショートスピーチをする。 ○ 話し手が話しやすい聞き方をする。
	11	●表現への扉⑥	○ プレゼンテーションに合わせて、資料の準備や発表の準備を行う。 ○ 聞き手の興味を引くような工夫をして、わかりやすく発表する。 ● コミュニケーションを豊かにすることに関する文章や資料を読み、表現活動の参考にする。
	12	○表現を楽しむ	○ さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて言語感覚を豊かにする。
	1	●これまでの学びの振り返り	● これまでの「国語表現」での学びの総括をする。
	2		
	3		

考査の実施	年3回（前期中間・前期期末・学年末）			
平常点の評価 （30点）	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	特になし			

【地歴公民科】

地理探究

履修学科	普通科（進学コース）
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	4単位
教科書	「新詳地理探究」（帝国書院）

学期・月		項 目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第一部 ○第一章 自然環境	・産業や農業の変遷過程や成立要因と、それに伴う社会的背景や自然・社会・市場条件などのかかわりから理解を深める。
	5	○第二章 資源と産業	
	6	農林水産業、食料問題、工業、第三次産業	
前期 期末	7	○第三章 交通・通信と観光・貿易 交通・通信、観光、貿易と経済圏	・世界の人口分布とその特徴を踏まえたうえで、地球規模での人口増加とその変遷、今後の予測について理解する。 ・村落の機能、立地要件、形態の特徴や成立要件についての理解し問題解決する力を身につける。
	8	○第四章 人口、村落・都市	
	9	人口、人口問題、村落と都市、都市・住居問題	
後期 中間	10	○第五章 生活文化、民族・宗教 衣食住、民族・宗教と民族問題	・民族問題の諸事象について、言語や国家との相互関係から、多面的・多角的に理解する。 ・宗教分布の特徴とその形成過程についての理解をふまえ、宗教を軸にした世界の文化的多様性について理解する。
	11	国家の領域と領土問題	
	12	第二部 ○第一章 現代世界の地域区分	
後期 期末	1	○第二章 現代世界の諸地域	・世界の諸地域の地域的特色をとらえるための地誌的な考察方法について理解する。 ・日本の強みを地理的視点から理解し、課題を見つけ解決しようとする力を身につける。
	2	第三部 ○第一章 持続可能な国土像の探究	
	3		

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	地球的な視野から地理的事象の課題発生要因を捉え、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付けている。	地域の特性とそこで発生する諸課題について捉えたことを基に、現代世界の諸地域の地理的認識を深め、地誌的な考察方法を身に付けている。	我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付けている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○

小テスト	○	○	
ノート提出	○	○	○
定期考査(年3回)	○	○	
留意事項			

【地歴公民科】

歴史総合

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新歴史総合」(第一学習社)

学期・月		項目	学習内容(ねらい)・評価の観点
前期 中間	4	第1部 歴史の扉	・日本と日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し,表現する。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通,アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に,18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し,表現する。
	5	第2部 近現代の世界と日本	
	6	第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設	
前期 期末	7	第3節 結び付く世界と日本の開国	・日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に,立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・列強の進出と植民地の形成,日清・日露戦争などを基に,列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・帝国主義政策の特徴,列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し,表現する。
	8	第4節 帝国主義とアジア諸国の変容	
	9	【近代化と現代的な諸課題】	
後期	10	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	・第一次世界大戦の特徴や国際協調体制を理解し,第一次世界大戦後の大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ・第二次世界大戦下の社会状況や国際情勢を理解し,第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・自由・制限,平等・格差などの観点から主題を設定し,現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 ・冷戦下の世界経済や地域連携,経済成長による生活や社会の変容などを考察し,経済成長下の日本の社会を理解する。 ・冷戦終結後の国際政治の変容と日本の課題を理解する。 ・日本と他国や地域の動向を多面的・多角的に考察,表現することで,現代的な諸課題を理解する。
	11	【国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題】	
	12	第3章 グローバル化と私たち	
	1	第1節 冷戦と植民地化・第三世界の台頭	
		第2節 世界秩序の変容と日本 【現代的な諸課題の形成と展望】	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について,現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに,諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義を理解し,相互の関連性や現代とのつながりなどに着目しながら多面的・多角的に考察し,歴史に見られる課題を把握しながら解決を視野に入れて考察,構想したことを効果的に説明,議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について,よりよい社会の実現を視野に現代社会の課題を主体的に追究し解決しようとしている。

【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	○
ノート提出	○	○	○
定期考査（年3回）	○	○	
留意事項	・ダイアログ歴史総合,新歴史総合ノートの副読本を用いる。 ・各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【地歴公民科】

日本史探究

履 修 学 科	普通科（進学コース）
履 修 学 年	第3学年
履 修 形 態	選択
履 修 単 位	4単位
教 科 書	「高校日本史」（山川出版社）

学期・月		項 目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1章 日本文化のあけぼの 歴史資料と原始・古代の展望	旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代を経て、我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、古墳文化、天平文化に着目して、古代国家の展開、文化の特色を理解し、多面的・多角的に考察する。
	5	第2章 古墳とヤマト政権	
	6	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	
前期 期末	7	第5章 院政と武士の進出 歴史資料と中世の展望	武士と土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について理解し、多面的・多角的に考察する。 日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景を理解し、多面的・多角的に考察する。
	8	第6章 武家政権の成立	
	9	第7章 武家社会の成長 第8章 近世の幕開け	
後期	10	歴史資料と近世の展望 第9章 幕藩体制の成立と展開	近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて多面的・多角的に考察する。また、幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問思想の動きを理解し、近世の都市や農村漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について多面的・多角的に考察する。 開国と幕末期の動乱、文明開化と欧米の文化・思想の影響や環境の変化などを理解し、明治維新以降の近代化の推進過程について多面的・多角的に考察する。 自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移を理解し、立憲国家としての展開について多面的・多角的に考察する。 政治や社会運動の動向、社会の変化及び大衆の文化、政党政治の発展、大衆社会の特色とその成立、また、国際社会の中の日本の立場を理解し、第一次世界大戦前後の対外政策や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について多角的・多面的に考察する。 国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係を理解し、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦とのかかわりについて多面的・多角的に考察する。
	11	第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ 歴史資料と近代・現代の展望	
	12	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開と国際関係	
	1	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と世界大戦 第16章 現代の世界と日本 現代日本の課題の探求	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
【評価場面】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	○
ノート提出	○	○	○
定期考査（年3回）	○	○	
留意事項			

【地歴公民科】

政治・経済

履修学科	普通科,美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	選択（3保） 必修（3未,3美）
履修単位	2単位
教科書	「最新 政治・経済」（実教出版）

学期・月		項目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1部 第1編 現代日本の政治	・政治，国家，法のあり方について考える ・基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。 ・民主政治のしくみと課題を理解したうえで，権力分立と立憲主義の重要性を理解する。
	5	第1章 現代国家と民主政治	
	6	第2章 日本国憲法と基本的人権	
前期 期末	7	第2章 日本国憲法と基本的人権	・日本国憲法の基本原理を理解したうえで，憲法の改正手続きについて考える。 ・自由権と社会権の内容について理解する。 ・新しい人権について理解する。
	8		
	9		
後期	10	第2章 日本国憲法と基本的人権	・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 ・国会の役割や権限について理解する。 ・内閣の権限と議院内閣制について理解する。 ・司法制度や司法参加の意義について理解する。 ・地方自治の本旨や住民の権利について理解する。 ・地方がかかえる課題について理解する。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ・日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。 ・マス・メディアや市民運動の意義について理解する。 ・国際社会の変遷，人権，国家主権，領土（領海，領空を含む）などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，我が国の安全保障と防衛，国際貢献について，現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。
	11	第3章 日本の政治制度と政治参加	
	11	第3章 日本の政治制度と政治参加	
	12	第2部 第1編 現代の国際政治	
	1	第1章 国際政治の動向と課題	
	2 3		

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	・政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解している。 ・国際社会の変遷，人権，国家主権，領土（領海，領空を含む）などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，我が国の安全保障と防衛，国際貢献について，現実社会の諸事象を通して理解している。	・民主政治の本質を基に，日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し，表現している。 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に，国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し，表現している。	・国民主権を担う公民として，現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち，課題にかかわる知識を主体的に深めたり，課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら，現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。

【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
ノート提出	○	○	○
定期考査（年3回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【公民科】

政治・経済

履修学科	普通科（進学コース），商業科
履修学年	第3学年
履修形態	選択（3進） 必修（3商）
履修単位	2単位
教科書	最新政治・経済（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	第1部 現代日本の政治・経済	- 資本主義や社会主義という経済体制の特質を理解させ，その変容を概観する。 - 市場のはたらきや国民所得，景気変動など経済の基本的事柄に対する理解を深化させる。
	5	第2編 現代日本の経済	
	6	第1章 現代の経済社会	
前 期 期 末	7	第1章 現代の経済社会	- バブル崩壊と金融，財政の課題などを理解させ，租税の意義も考えさせる。 - バブルとその崩壊後の不況という現状に至る日本経済の流れを追い，経済成長や景気変動，金融・財政政策という理論的既習事項を現実の歴史の中で具体的に把握させる。
	8	第2章 現代の日本経済と福祉の向上	
	9		
後 期	10	第2章 現代の日本経済と福祉の向上	- 公害や労働関係，社会保障といった日本経済が直面する課題について理解し，今後の展望について考察させる。 - 国際社会を構成する要素と国際社会での日本の取り組みを考えさせる。 - 国際貿易とグローバル化の進展についてより理解させる。
	11	第2部 現代の国際政治・経済	
	12	第2編 現代の国際政治	
	1	第1章 国際政治理論	
	2 3	第2章 国際経済の動向と課題	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	- 経済活動と市場，経済主体と経済循環，国民経済の大きさと経済成長，物価と景気変動，財政の働きと仕組み及び租税などの意義，金融の働きと仕組みについて，現実社会の諸事象を通して理解している。 - 現代日本の政治・経済に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。	- 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し，表現している。 - 市場経済の機能と限界，持続可能な財政及び租税の在り方，金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察，構想し，表現している	国民主権を担う公民として，現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち，課題にかかわる知識を主体的に深めたり，課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら，現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
ノート提出	○	○	○
定期考査（年3回）	○	○	

留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。
------	-----------------------

【数学科】

数学Ⅱ

履修学科	普通科（未来創造・保育）
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	新編 数学Ⅱ（数研出版）

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1 指数の拡張	・指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	5	2 指数関数	
	6	第2節 対数関数 3 対数とその性質	
		4 対数関数	
		5 常用対数	
前期 期末	7	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	・微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	8	1 微分係数	
	9	2 導関数とその計算 3 接線の方程式	
後期	10	第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小	・導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 ・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	11	5 関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法	
	12	6 不定積分	
	1	7 定積分	
		8 定積分と面積	

考查の実施	前期中間・前期期末・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

数学Ⅲ

履修学科	普通科（進学）
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	4単位
教科書	新編 数学Ⅲ （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	第1章 関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	・分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。
	5	第2章 極限 第1節 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列	・数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。
	6	3 無限級数 第2節 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	・数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。
前 期 期 末	7	第3章 微分法 第1節 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	・微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。
	8	第2節 いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数	・導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それを用いて関数が微分できるようにする。また、陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	9	4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	
後 期	10	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ	・導関数を、接線、関数の増減、グラフなどに活用できるようにするとともに、積極的に導関数を活用しようとする姿勢を育てる。
	11	第2節 いろいろな応用 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	・関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、点の運動や近似式についても理解し、導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。
	12	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分	・様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められるようにする。
	1	1 積分法とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分	・様々な関数の定積分を求められるようにする。また、定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。
		第2節 定積分 第3節 積分法の応用	・定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。

考査の実施	前期中間・前期期末・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

数学 C

履修学科	普通科（進学）
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	4単位
教科書	新編 数学 C （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算	- 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 - 位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。
	5	3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形	
	6	5 位置ベクトル	
前 期 期 末	7	6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	- 図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 - 平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。
	8	第2章 空間のベクトル 1 空間の点 2 空間のベクトル	
	9	3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形	
後 期	10	第3章 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	- 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。 - 放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるようにする。 - 曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し、様々な曲線の媒介変数表示について考察できるようにする。また、極座標の仕組みについて理解し、図形を極方程式で表したり、極方程式が表す図形を求めたりできるようにする。さらに、コンピュータを用いるなどして、様々な曲線についてその方程式や概形について、主体的に考察しようとする姿勢を養う。 - 日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフ、離散グラフや行列などを用いて工夫して表現することの意義について理解するとともに、それらを積極的に活用して事象を考察する姿勢を培う。
	11	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線	
	12	4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示	
	1	7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用	
	1	第5章 数学的な表現の工夫 1 データの表現方法の工夫 2 行列による表現	
	1	3 離散グラフによる表現 4 離散グラフと行列の関連	

考查の実施	前期中間・前期期末・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

基礎数学

履 修 学 科	普通科（未来創造・保育）
履 修 学 年	第 3 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1 数の計算 2 式の計算	教材：「 整理と演習・完成ワーク数学 」（増進堂） ・義務教育範囲から数学 I の基礎的な内容を学び直し、その定着を図る。
	5	3 因数分解 4 約数と倍数	
	6	5 平方根の計算	
	6	6 1 次方程式, 連立方程式	
前期 期末	7	7 2 次方程式 8 不等式	・義務教育範囲から数学 I の基礎的な内容を学び直し、その定着を図る。特に文章問題を多く扱うことで、進路決定への補助となるようにする。
	8	9 数と量の文章問題	
	9	10 割合の文章問題	
	9	11 速さの文章問題	
後期	10	12 規則性などの文章問題	・義務教育範囲から数学 I の基礎的な内容を学び直し、その定着を図る。
	11	22 三角比 23 場合の数	
	12	24 確率 25 データの分析	
	1	13 1 次関数とグラフ	
	1	14 2 次関数とグラフ	
	1	15 図形と角	
	1	16 合同な図形	
後期	1	17 相似な図形	・義務教育範囲から数学 I の基礎的な内容を学び直し、その定着を図る。
	1	18 円	
	1	19 図形の面積	
	1	20 三平方の定理の利用	
後期	1	21 立体の体積と表面積	・義務教育範囲から数学 I の基礎的な内容を学び直し、その定着を図る。
	1		

考查の実施	前期中間・前期期末・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
留意事項	4 ワークシート	○	○	○

【数学科】

数学総合

履修学科	普通科（進学）
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	4単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	〈数学Ⅰ〉 1 数と式	教材 「新課程リンク 数学演習ⅠA＋ⅡBC」 （数研出版） ・数学Ⅰの教科書レベルから大学入試標準レベルまで扱う。基本的な内容の定着と実践的な力を身に付ける。
	5	2 集合と命題	
	6	3 2次関数	
	6	4 図形と計量 5 データの分析	
前期 期末	7	〈数学A〉 6 場合の数と確率	・数学AとⅡの教科書レベルから大学入試標準レベルまで扱う。基本的な内容の定着と実践的な力を身に付ける。
	8	7 図形の性質 8 数学と人間の活動	
	9	〈数学Ⅱ〉 9 式と証明	
後 期	10	10 複素数と方程式	・数学Ⅱの教科書レベルから大学入試標準レベルまで扱う。基本的な内容の定着と実践的な力を身に付ける。
	11	11 図形と方程式 12 三角関数	
	12	13 指数関数と対数関数 14 微分法と積分法	
	1		

考查の実施	前期中間・前期期末・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

看護数学

履修学科	普通科（看護医療）
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	〈数学Ⅰ〉 1 式の展開・因数分解	教材 「新課程ジュニア演習 数学ⅠA 受験編」 （数研出版） ・ 数学Ⅰの基本から応用までの演習を段階的に行う看護系学校の入試頻出問題を扱うことで、受験に必要な力を身に付ける。
	5	2 根号を含む式の計算 3 1次不等式	
	6	4 2次関数のグラフ 5 2次関数の最大・最小	
		6 グラフと2方程式 7 グラフと2次不等式	
前期 期末	7	11 三角比	・ 数学Ⅰの基本から応用までの演習を段階的に行う看護系学校の入試頻出問題を扱うことで、受験に必要な力を身に付ける。
	8	12 正弦定理・余弦定理 13 図形の計量	
	9	14 集合と命題	
		22 データの分析	
後 期	10	〈数学A〉 15 場合の数、順列	・ 数学Aの基本から応用までの演習を段階的に行う看護系学校の入試頻出問題を扱うことで、受験に必要な力を身に付ける。
	11	16 組み合わせ 17 確率（1）	
	12	18 確率（2） 19 確率（3）	
	1	20 数学と人間の活動（1） 21 数学と人間の活動（2）	
		8 平面図形（1） 9 平面図形（2）	
		10 空間図形	

考査の実施	前期中間・前期期末・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

教養数学

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	＜数学Ⅰ＞ ○数と式 1～9 式の計算 10～13 実数 14～18 1次不等式	教材：「ラウンドノート 数学Ⅰ+A」 (実教出版) ・数学Ⅰにおいて、基礎レベルから標準レベルの内容を扱う。復習を兼ねながらも学力の底上げを図る。
	5	○集合と論証 19～21 集合と論証	
	6	○2次関数 22～28 2次関数とそのグラフ 29～34 2次関数と2次方程式	
前期 期末	7	○図形と計量 35～40 三角比 41～45 三角比と図形の計量	・数学Ⅰにおいて、基礎レベルから標準レベルの内容を扱う。復習を兼ねながらも学力の底上げを図る。
	8	○データの分析 46～49 データの整理	
	9	50～55 データの分析	
後期	10	＜数学A＞ ○場合の数と確率 1～10 場合の数 11～19 確率	・数学Aにおいて、基礎レベルから標準レベルの内容を扱う。復習を兼ねながらも学力の底上げを図る。
	11	○図形の性質 20～23 三角形の性質	
	12	24～28 円の性質	
	1	○数学と人間の活動 32～38 数と人間の活動 39～40 図形と人間の活動	

考查の実施	前期中間・前期期末・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

物理基礎

履修学科	普通科（看護）
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「改訂 新編物理基礎」(東京書籍)
副教材	「ニューサポート新編物理基礎」 (東京書籍)

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期中間	4	1 編 物体の運動とエネルギー 1 章 直線運動の世界 2 章 力と運動の法則	- 物体の運動を測定し、その運動のグラフで表すことを通して、運動の表し方を理解する。 - 物体の加速度について理解・分析ができ、力の合成と分解をベクトルで表せるようになる。 - 運動の三法則を理解する。 - 摩擦力、及び液体や気体から受ける力を理解する。
	5		
	6		
前期期末	7	3 章 力学的エネルギー	- 仕事の定義と仕事の原理について理解する。 - 仕事とエネルギーの関係、および力学的エネルギー保存則を用いて色々な運動を分析できるようになる。 - 粒子の熱運動と温度との関係を定性的に理解する。 - 粒子の熱運動から、物質の三態変化、絶対温度、及び潜熱について理解する。
	8	2 編 さまざまな物理現象とエネルギー 1 章 熱	
	9		
後期	10	2 章 波	- 波の基本的な性質を理解し、波の波長などを分析、計算できるようになる。 - 横波と縦波の違い、波の独立性、重ね合わせの原理、反射、身近な楽器の原理について理解する。 - 静電気や電流について電子の移動と関連付けて理解するとともに、電荷や電流の大きさを定量的に扱えるようになる。 - 交流に関連して電磁波について学ぶ。 - エネルギーについて学び、その利用と課題について考える。
	11	3 章 電気	
	12	4 章 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く世界	
	1		
	2		
	3		

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	前期中間・前期末・学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「ニューサポート新編物理基礎」は、各自予習復習に使い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【理科】

物理

履修学科	普通科（進学）
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	4単位
教科書	「物理」(東京書籍)
副教材	「ニューアチーブ物理」(東京書籍)

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	2編 波	- 物理基礎で学習した波の性質に加え、波の屈折・回折・干渉について理解する。 - 波動としての音や波の性質を理解する。 - ドップラー効果とはどのような現象か理解する。 - 回折格子による光の干渉条件について理解する。
	5	1章 波の伝わり方	
	6	2章 音	
前期 期末	7	3章 光	- 電場や電位が何かについて理解し、それぞれの表し方について理解する。 - 回路における電位と電流の関係について理解する。 - 静電誘導や誘電分極がどのような現象か理解する。 - コンデンサーに関する性質や法則を理解する。
	8	3編 電気と磁気	
	9	1章 電場と電位	
後期	10	2章 電流	- 磁場とは何かについて理解し、磁場の表し方や電流との関係について理解する。 - 磁場中を運動する荷電粒子（ローレンツ力）について理解する。 - 電磁誘導について理解し、その際の誘導起電力の表し方について理解する。 - 粒子性と波動性の二重性を扱う理論形式（量子力学）について理解する。 - 光子や放射線の性質、核反応について理解する。 - 物理学の発展と成果が科学技術の基盤をつくり、それらが様々な分野において応用され、未来の社会の形成、未知の世界の探究に大きな役割を果たしていることを理解する。
	11	4章 電磁誘導と電磁波	
	12	4編 原子	
	1	1章 電子と光	
	2	2章 原子と原子核	
	3	終章 物理学が築く未来	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	前期中間・前期末・学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	- 授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 - 教科書準拠の問題集「ニューアチーブ物理」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。 2年次に「物理」を2単位履修しており、計6単位を履修する。			

【理科】 化学

履修学科	普通科（進学コース）
履修学年	第3学年（2学年から継続履修）
履修形態	選択
履修単位	4単位
教科書	「新編化学」（数研出版）
副教材	「リードLightノート」（数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第3編 無機物質	・非金属元素の単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。 ・典型元素の単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。 ・遷移元素の単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。
	5	第1章 非金属元素	
	6	第2章（Ⅰ）－典型元素－ 第3章（Ⅱ）－遷移元素－	
前期期末	7	第4編 有機化合物	・有機化合物の特徴を理解する。 ・有機化合物の分類について、炭素骨格での分類や官能基による分類を理解する。 ・脂肪族炭化水素の構造や反応について理解し、化学反応式であらわすことができる。 ・アルコールとその関連化合物の構造、性質、反応について理解する。
	8	第1章 有機化合物の特徴と分類と分析	
	9	第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物	
後期	10	第4章 芳香族化合物	・ベンゼン環の構造とその特徴について理解する。 ・芳香族化合物の化学式や名称、反応性について理解する。 ・高分子化合物の定義や分類、構造について理解する。 ・糖類、タンパク質、核酸の、それぞれの化学式と構造、名称、反応性について理解する。 ・合成高分子化合物の分類、重合、利用例について理解する。
	11	第5編 高分子化合物	
	12	第1章 高分子化合物	
	1	第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物	

評価の割合	知識・技能（考査 90％ 平常 10％） 思考力・判断力・表現力（考査 60％ 平常 40％） 主体的に学びに向かう態度（平常 100％）			
考査の実施	前期中間、前期末、学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リードLightノート」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。 ・2年次に「化学」を2単位履修しており、計6単位を履修する。			

【理科】 化学

履修学科	普通科（看護医療コース）
履修学年	第3学年（2学年から継続履修）
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新編化学」（数研出版）
副教材	「リードLightノート」（数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第4編 有機化合物	・有機化合物の特徴を理解する。 ・有機化合物の分類について、炭素骨格での分類や官能基による分類を理解する。 ・脂肪族炭化水素の構造や反応について理解し、化学反応式であらわすことができる。
	5	第1章 有機化合物の特徴と分類と分析	
	6	第2章 脂肪族炭化水素	
前期期末	7	第3章 アルコールと関連化合物	・アルコールとその関連化合物の構造、性質、反応について理解する。 ・ベンゼン環の構造とその特徴について理解する。 ・芳香族化合物の化学式や名称、反応性について理解する。
	8	第4章 芳香族化合物	
	9		
後期	10	第5編 高分子化合物	・高分子化合物の定義や分類、構造について理解する。 ・糖類、タンパク質、核酸の、それぞれの化学式と構造、名称、反応性について理解する。 ・合成高分子化合物の分類、重合、利用例について理解する。
	11	第1章 高分子化合物	
	12	第2章 天然高分子化合物	
	1	第3章 合成高分子化合物	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	前期中間、前期末、学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リードLightノート」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。 ・2年次に「化学」を2単位履修しており、計4単位を履修する。			

【理科】

生物

履修学科	普通科（進学・看護医療）
履修学年	第3学年
履修形態	必修(看護医療) 選択(進学)
履修単位	4単位
教科書	「生物」(実教出版)
副教材	「アクセスノート生物」(実教出版)

学期・月		項目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	3章 遺伝情報の発現と発生 1節 遺伝情報とその発現	・遺伝情報にしたがって特定のタンパク質が合成され、形質が発現することの概要について理解させる。 ・受精では、生殖細胞の合体によって染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができることを重点的に理解させる。 ・バイオテクノロジーについては、遺伝子操作が様々な分野で研究手法として用いられていることを、事例を通して把握させる。
	5	2節 発生と遺伝子発現	
	6	3節 遺伝子を扱う技術	
前 期 期 末	7	4章 生物の環境応答 1節 動物の反応	・刺激を受容する器官、神経の興奮とその伝達、中枢神経系の働き、動物の反応について知らせ、刺激の受容から反応までの関連を把握させる。 ・脳のつくりでは、大脳、間脳、中脳、小脳、延髄に分けられることや灰白質や白質などについて理解させる。 ・動物の行動は、代表例を探究的に考察させる。
	8	2節 動物の行動	
	9		
後 期	10	5章 生態と環境 1節 個体群と生物群集	・生物と環境との関わりについて理解させる。 ・自然界における生物についての見方や考え方を身につけさせる。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶ。 ・1章 生物の進化 ～ 5章 生態と環境 を演習させる。 ・学習した範囲で生徒が興味を持ったテーマについて、探究学習をさせ、発表させる。
	11	2節 生態系	
	12	演習・探究	
	1		

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	前期中間・前期末・学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「アクセスノート生物」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。 ・2年次に「生物」を2単位履修しており、計6単位を履修する。			

【理 科】

地学基礎

履修学科	普通科，商業科
履修学年	第3学年（普通科未来創造コース， 保育コース，商業科）
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	「改訂版 高等学校地学基礎」 （数研出版）
副教材	「リト` Light ノート地学基礎」（数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1編 活動する地球	- 地球の層構造を学習し，表面と内部の性質の違いを理解する。 - 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 - 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。
	5	第1章 地球の構造	
	6	第2章 プレート運動	
	6	第3章 地震 第4章 火山	
前期 期末	7	第2編 移り変わる地球	- 河川の働きと地層の形成について学習する。 - 化石のでき方および示相化石と示準化石を学習する。 - 相対年代と絶対年代について学習し，地質年代代表について理解する。
	8	第1章 地層の形成	
	9	第2章 古生物の変遷と地球環境	
後期 期末	10	第3編 大気と海洋	- 大気の組成，大気圧力，大気圏の構造を学習する。 - 緯度によるエネルギー収支を学習し，大気の大循環について理解する。 - 気団や季節風，日本の天気の特徴を理解する。 - 地球の温暖化について学習する。 - 太陽のエネルギー源や太陽の表面現象について学習し，太陽の構造について理解する。 - 太陽系の構造と誕生について学習し，太陽系がどのように形成されたのかを理解する。 - 宇宙の広がりや銀河の分布を学習し，宇宙の大規模構造について理解する。
		第1章 地球の熱収支	
		第2章 大気と海水の運動	
	11	第4編 地球の環境	
		第1章 地球の環境と日本の自然環境	
	12	第5編 太陽系と宇宙	
		第1章 太陽系と太陽	
	1	第2章 宇宙の誕生	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	前期中間・前期期末・学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 （プリント、ノート、ワーク等）	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントや画像のまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リト` Light ノート地学基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【理 科】

地学基礎

履 修 学 科	進学, 美術・デザイン科
履 修 学 年	第3学年 (普通科進学コース, 美術・デザイン科)
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	「改訂版 高等学校地学基礎」 (数研出版)
副 教 材	「リト` Light ノート地学基礎」(数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	第1編 活動する地球	- 地球の層構造を学習し、表面と内部の性質の違いを理解する。 - 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し、火成岩の分類について理解する。 - 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。
	5	第1章 地球の構造	
	6	第2章 プレート運動	
	6	第3章 地震 第4章 火山	
前 期 期 末	7	第2編 移り変わる地球	- 河川の働きと地層の形成について学習する。 - 化石のでき方および示相化石と示準化石を学習する。 - 相対年代と絶対年代について学習し、地質年代代表について理解する。
	8	第1章 地層の形成	
	9	第2章 古生物の変遷と地球環境	
後 期 期 末	10	第3編 大気と海洋	- 大気の組成, 大気圧力, 大気圏の構造を学習する。 - 緯度によるエネルギー収支を学習し, 大気の大循環について理解する。 - 気団や季節風, 日本の天気の特徴を理解する。 - 地球の温暖化について学習する。 - 太陽のエネルギー源や太陽の表面現象について学習し, 太陽の構造について理解する。 - 太陽系の構造と誕生について学習し, 太陽系がどのように形成されたのかを理解する。 - 宇宙の広がりや銀河の分布を学習し, 宇宙の大規模構造について理解する。
	11	第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動	
	11	第4編 地球の環境	
	12	第1章 地球の環境と日本の自然環境	
	12	第5編 太陽系と宇宙	
	1	第1章 太陽系と太陽 第2章 宇宙の誕生	

評価の割合	知識・技能 (考査 90% 平常 10%) 思考力・判断力・表現力 (考査 60% 平常 40%) 主体的に学びに向かう態度 (平常 100%)			
考査の実施	前期中間・前期期末・学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントや画像のまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リト` Light ノート地学基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【保健体育科】

体 育

履修学科	普通科・商業科・美術デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	アクティブスポーツ 2024

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	体づくり運動・集団行動	・集団行動の中で約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
	5	選択授業 バドミントン	
	6	バレーボール	
	6	バスケットボール ソフトボール (体育理論)	
前期 期末	7	選択授業	・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
	8	バドミントン	
	9	バレーボール	
	9	バスケットボール サッカー (体育理論)	
後期	10	選択授業	・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ・国や地方自治体が、スポーツ振興のために行っている様々な施策についての理解を深める。
	11	バドミントン	
	12	バスケットボール	
	12	サッカー (ソフトボール)	
	1	卓球 体育理論	

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	中間考査・前期期末・学年末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を認識し、自らを鍛えるという習慣を身に付け、体力の向上に努力する。年間を通して集団の一員としての在り方を見つめ、進んで取り組む姿勢や改善する能力を養う。また、健康を常に意識しながらスポーツを生涯の友として取り組む姿勢を養う。			

【芸術科】

音楽探究

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第3学年（保育コース）
履 修 形 態	必履修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	・「音楽探究」学習のためのガイダンス、アンケート	・昨年度までの進捗や進路希望の確認
	5	・歌唱（日本の愛唱歌より）	・声によるハーモニーを作り、感じ取る
	6	・キーボードアンサンブル ・楽典（昨年度の復習） ※実技テストおよび小テスト実施	・教科書「ぐるぐるピアノ」 ・復習を通して知識として定着させる。プリント学習など
前 期 期 末	7	・歌唱	・現代日本の作曲家の作品に触れる
	8	・ピアノ課題	・課題の確認
	9	・童謡（歌唱と伴奏） ・楽典（関係調、転回形など） ※実技テストおよび小テスト実施	・演奏や解釈等に必要な楽典を学ぶ
後 期 中 間	10	・ミュージカル映画鑑賞（感想文提出）	・ミュージカルに触れ、制作の舞台裏や表現力等を学ぶ
	11	・発表会に向けて(連弾)(選曲、練習) ・音楽に関する調べ学習 ・童謡の練習	・3年間のまとめとしての発表会 ・童謡のレパートリーとして練習
学 年 末	12	・発表会（発表）	・3年間取り組んできたことの集大成として実施（人前で発表する経験をする）
	1	・童謡（テスト）	・音楽が関わっている映画を鑑賞し、内容について深く考える。
	2	・鑑賞（感想文提出）	・3年間の取り組みと成果など振り返る
	3	・まとめのレポート作成	

評価の割合	実技テストや課題評価、小テストと平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 課題提出等	○	○	○
留意事項				

【外国語科】

英語

コミュニケーション II

履修学科	普通科(未来・保育) 商業科 (情ビ)
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	All aboard! English Communication II (東京書籍)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	Lesson 6 Seeds for Future Generations	教材：「英単語ターゲット 1200」（旺文社） 「書き込み式ノート英単語ターゲット 1200 Workbook 3」 「All aboard! English Communication II ワークブック」 ①京都伝統野菜の種の保存の取り組みについての説明を読み取り、改めて地域社会とのつながりについて理解する。動詞の目的語になる if 節表現に関する用法を理解する。 ②アーティストのミヤザキケンスケさんの活動の目的を読み取り、この活動にたどり着くまでの人との関り、今後の展望について考える。関係副詞 where, when を使った用法を理解する。
	5		
	6	Lesson 7 Over the Wall	
前期 期末	7	Lesson 8 Inspiration from Nature	自然界の動植物の長い歴史の中で、その自然界の仕組みから学んだことを技術開発に生かそうとする取り組みについて考える。知覚動詞の用法について理解する。
	8		
	9		
後期 期末	10	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	①カカオの生産と、西アフリカにおける児童労働に関する現状を理解し、日本企業の取り組みや消費者として自分にできることについて考える。使役動詞の意味と用法を理解する。
	11		
	12	Lesson 10 Fighting Angel	②近代の医療看護の礎を作ったナイチンゲールの功績や、彼女が現在の医療看護にも影響を及ぼしていることを読み取り、「人を助ける職業」の価値を考え、自分の将来の仕事について考える。分詞構文表現を理解し、文を作ることができる。
	1		

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期期末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語 4 技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

英語

コミュニケーション II

履修学科	普通科（進学、看護）、美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	「APPLAUSE II」（開隆堂）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	Lesson 6 Artificial Intelligence Lesson 7 Bando Is My Second Hometown	教材：「英単語ターゲット 1200」商業科（進ラ）、美・デ科 「書き込み式ノート 英単語ターゲット 1200 Workboo3」 「System 英単語 Basic」普通科（進学、看護） 「APPLAUSE English Communication I Workbook」 ①AI を搭載した身近で活躍するロボットの機能や役割について理解する。S+V+O+C、使役動詞、help + 目的語+同氏の原形、知覚動詞の用法を理解する。 ②徳島県鳴門市にあった収容所で、ドイツ人捕虜と地元民との交流の背景と、国境を越え友好の絆について考える。様々な比較級、完了不定詞、seem to ~の意味と用法を理解する。
	5		
	6		
前期 期末	7	Lesson 8 The Great Discovery Out of an Accident Lesson 9 Green Land Plan	①さまざまな感染症苦しめられた人類の歴史を知り、多くの研究者がそれらを克服するために研究し、人類を救ってきた歴史にも触れる。様々な詞構文、付帯状況の with についての用法を理解する。 ②アフガニスタンの復興に生涯をかけた日本人医師中村哲さんについて理解する。関係代名詞（制限用法・日制限用法）、関係副詞、非制限用法の関係副詞の用法を理解する。
	8		
後期 期末	9	Lesson 10 The Mystery of Colors Lesson 11 Why Do People Build and Break the Wall?	①色の持つ不思議な力、色の影響について理解を深める。仮定法過去、仮定法過去完了、If を用いない仮定法、no matter + 疑問詞、複合関係詞を理解する。 ①島国に住む日本人の歴史的、文化的な背景を知る。同格の that・of、否定倒置構文、強調構文、省略、未来完了形の用法を理解する。
	10		
	11		
	12		
	1		

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

英語

コミュニケーション II

履修学科	商業科（進ラ）
履修学年	第 3 学年
履修形態	必修
履修単位	3 単位
教科書	「APPLAUSE II」（開隆堂）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	Lesson 6 Artificial Intelligence Lesson 7 Bando Is My Second Hometown	教材：「英単語ターゲット 1200」商業科（進ラ）、美・デ科 「書き込み式ノート 英単語ターゲット 1200 Workboo3」 「System 英単語 Basic」普通科（進学、看護） 「APPLAUSE English Communication I Workbook」 ①AI を搭載した身近で活躍するロボットの機能や役割について理解する。S+V+O+C、使役動詞、help + 目的語+同氏の原形、知覚動詞の用法を理解する。 ②徳島県鳴門市にあった収容所で、ドイツ人捕虜と地元民との交流の背景と、国境を越え友好の絆について考える。様々な比較級、完了不定詞、seem to ~の意味と用法を理解する。
	5		
	6		
前期 期末	7	Lesson 8 The Great Discovery Out of an Accident Lesson 9 Green Land Plan	①さまざまな感染症苦しめられた人類の歴史を知り、多くの研究者がそれらを克服するために研究し、人類を救ってきた歴史にも触れる。様々な詞構文、付帯状況の with についての用法を理解する。 ②アフガニスタンの復興に生涯をかけた日本人医師中村哲さんについて理解する。関係代名詞（制限用法・日制限用法）、関係副詞、非制限用法の関係副詞の用法を理解する。
	8		
後期 期末	9	Lesson 10 The Mystery of Colors Lesson 11 Why Do People Build and Break the Wall?	①色の持つ不思議な力、色の影響について理解を深める。仮定法過去、仮定法過去完了、If を用いない仮定法、no matter + 疑問詞、複合関係詞を理解する。 ①島国に住む日本人の歴史的、文化的な背景を知る。同格の that・of、否定倒置構文、強調構文、省略、未来完了形の用法を理解する。
	10		
	11		
	12		
	1		

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

英語総合 B

履修学科	普通科（未来創造）
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	最新英語入門（浜島書店）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4 5 6	1 語順に注意！	「最新英語入門」 ・基礎的な事項の復習をしながら、高校範囲の基礎的な事項の習得を図る。 ・動詞の基本活用を習得し、表現できるようになる。 ・英文の構造を整理し、英語の感覚を身につける。
		2 be 動詞と have	
		3 一般動詞	
		4 疑問文(1)と否定文	
		5 疑問文(2)	
		6 助動詞	
		7 There is[are]～. と命令文	
前期 期末	7 8 9	8 3つの時制（現在・過去・未来）	・時制を理解し、出来事の順序を正しく表現できるようにする。 ・形容詞の3つの比較変化を理解し、適切に選択することができる。 ・受け身が使われる場合を理解し、動詞の過去分詞の習得に努める。 ・動詞が名詞や形容詞などの他の品詞に代わって働くことを理解する。 ・完了形が使われる3つの意味合いを理解し、過去分詞の習得に努める。
		9 進行形	
		10 現在完了形と現在完了進行形	
		11 受け身の文	
		12 比較	
		13 現在分詞と過去分詞	
		14 動名詞	
後期 期末	10 11 12 1	15 不定詞(1)	・2つの語や2つの文をつなぐ様々な接続詞について整理する。 ・人やものを修飾する関係代名詞の働きについて理解をする。
		16 不定詞(2)	
		17 関係代名詞	
		18 接続詞	
		19 前置詞	
		20 熟語など	
		21 仮定法	

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

英語総合 B

履修学科	普通科（進学・看護・美術）
履修学年	第3学年
履修形態	必修 ※美術は選択
履修単位	2単位
教科書	英文法ワークショップ

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	(1)わかりやすい英文法【解説編】	(1)わかりやすい英文法【解説編】を読んで理解し、セルフレクチャーができる。
	5	(2)わかりやすい英文法【例文集】 第1章 品詞と文型 第2章 英語の基本事項 第3章 時制 第4章 助動詞	(2)わかりやすい英文法【例文集】を使って音読をし、「日本語⇄英語」をスムーズに変換できる。また、それらの例文を使って英作文ができる。小テストも実施する。
	6	(3)英文法ワークショップ Unit1～Unit4	(3)英文法ワークショップの問題をノートに繰り返し練習し、考査前に直接書き込む。高校基礎レベルの事項の復習をしながら、受験範囲の文法事項の習得を図る。
		(4)スピーキング用課題 Lesson1、Lesson7、Lesson9	(4)主にペアワークなどを通して英語によるコミュニケーション力の向上を図る。 また、スピーキングテストも実施する。
前期 期末	7	(1)わかりやすい英文法【解説編】	(1)わかりやすい英文法【解説編】を読んで理解し、セルフレクチャーができる。
	8	(2)わかりやすい英文法【例文集】 第6章 不定詞 第7章 動名詞 第8章 分詞	(2)わかりやすい英文法【例文集】を使って音読をし、「日本語⇄英語」をスムーズに変換できる。また、それらの例文を使って英作文ができる。小テストも実施する。
	9	(3)英文法ワークショップ Unit6～Unit8	(3)英文法ワークショップの問題をノートに繰り返し練習し、考査前に直接書き込む。高校基礎レベルの事項の復習をしながら、受験範囲の文法事項の習得を図る。
		(4)スピーキング用課題 Lesson12、Lesson15	(4)主にペアワークなどを通して英語によるコミュニケーション力の向上を図る。 また、スピーキングテストも実施する。
後期 期末	10	(1)わかりやすい英文法【解説編】	(1)わかりやすい英文法【解説編】を読んで理解し、セルフレクチャーができる。
	11	(2)わかりやすい英文法【例文集】 第9章 比較 第10章 関係詞 第11章 仮定法	(2)わかりやすい英文法【例文集】を使って音読をし、「日本語⇄英語」をスムーズに変換できる。また、それらの例文を使って英作文ができる。小テストも実施する。
	12	(3)英文法ワークショップ Unit9～Unit11	(3)英文法ワークショップの問題をノートに繰り返し練習し、考査前に直接書き込む。高校基礎レベルの事項の復習をしながら、受験範囲の文法事項の習得を図る。
	1	(4)スピーキング用課題 Lesson17、Lesson18	(4)主にペアワークなどを通して英語によるコミュニケーション力の向上を図る。 また、スピーキングテストも実施する。

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発 表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動	○	○	○
留意事項	・英語４技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【教科情報】

情報課題

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第3学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	最新 情報 I 日文出版（1年次使用）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	情報モラル	情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 解決案を検討したり，整理・分析したりする方法について理解する。 情報を正確に，わかりやすく伝える方法について理解する。 報告書やレポート，論文を作成するための手順について理解する。 Microsoft Word・PowerPoint の活用
	5	問題解決	
	6	ビジネス文書・レポート・論文作成	
前期 期末	7	モデル化とシミュレーション	モデル化の意味・分類について理解する。 モデル化する手順と方法を理解し，様々なモデルを作成する。 シミュレーションの意義について理解し，確率的モデルのシミュレーションを行う。 情報収集と問題解決を利用し，進路決定に向けた書類の作成を行う Microsoft Excel の活用
	8	AI の活用	
	9	履歴書等の作成	
後期		データの収集・整理・分析	
	10		
	11	アルゴリズムとプログラミング	
	12	VBA のプログラミング	
	1		

評価の割合	考査 50% 実技および平常点 50%		
考査の実施	年３回（実技試験を含む）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
考 査	○	○	
学習プリント等	○	○	○
課題提出	○	○	○
小テスト	○	○	
実技課題	○	○	○
留意事項	毎時間 i p a d を充電して持参すること		

【商業科】 課題研究 (ビジネス計算探究)

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	ガイダンス	○ビジネス計算に関する課題を発見し、その解決に向けた探究学習を行う。
	5	探究① ビジネス計算について考える	
	6		
前期 期末	7	探究② 外国貨幣と税金計算について考える	○外国貨幣を調べ、日本円との換算比較をまとめる。 ○税金計算（所得税・法人税）の仕組みを知り、実際に計算し探究学習を行う。
	8		
	9		
後期	10	探究③ 商慣習について考える まとめ	○商慣習に基づいたビジネス計算の問題点を発見し、探究学習を行う。 ○ビジネス計算分野の学習項目を取り上げ、自分で作問し問題の解説を行う。 ○年金計算の仕組みを知り、実際に計算し比較分析しながら探究活動を行う。
	11		
	12		
	1		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考查の割合は以下の通り。 知・技（考查9割、考查外1割）思・判・表（考查6割、考查外4割）主体的（考查外10割） 定期考查の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考查の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	○使用教材は授業で提示します。 ○2年次に「ビジネス計算探究」を選択した生徒は、3年次に「ビジネス計算探究」を選択することはできません。同様に、3年次に「ビジネス計算探究」を選択する予定の生徒は、2年次に「ビジネス計算探究」を選択することはできません。			

【商業科】

課題研究

(会計探究)

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	ガイダンス 探究① 連結会計について考える	・企業に関して探究する学習を行います。 ・会社組織についてどのようなものがあるかを調べます。 ・連結の会計方法にはどのようなものがあるのかを調べます。 ・親会社と子会社の会計取引にはどのような課題と解決策を探ります。
	5		
	6		
前期 期末	7	探究② 有価証券の種類について考える	・有価証券の種類について探究する学習を行います。 ・保有目的変更における課題と解決策を探ります。
	8		
	9		
後 期	10	探究③ 税効果会計について考える	・企業会計上の「収益・費用」と法人税法上の「益金・損金」の目的の相違について学び、その課題と解決策を探ります。 ・外貨建取引、決算時の処理および為替予約の取引における課題と解決策を探ります。 ・探究学習の成果についてまとめ、発表します。
	11	探究④ 為替換算会計について考える	
	12		
	1		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・使用する教科書については、授業開始時に指示します。			

【商業科】

課題研究（情報表現）

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	ガイダンス 1 アルゴリズム	- この講座で、課題を発見し解決策を探究することを学ぶ - アルゴリズムの基礎（仕組み）を学ぶ - 表計算ソフトウェア言語（VBA）の基礎を学ぶ（占い・電卓・じゃんけんゲーム等の作成） - 身近な活動の中にある課題を発見し、その解決に向けた処理方法などを探究する
	5	2 VBA 基礎	
	6	3 探究① 学校生活の中にある問題について考える	
前 期 期 末	7	4 VBA 応用	- オリジナルアプリケーションの作成 - ビジネスにおけるシステム開発を想定し、業務のシステム化における課題を見つけ、その解決に向けた処理方法などを探究する
	8	5 探究② ビジネスツールとしての	
	9	プログラムを考える	
後 期	10	6 Python 基礎	- Python の基礎を学ぶ（図形・占い・じゃんけんゲームを作成） - プログラミング言語の違いによってどう違いが生じるかを見つけ、適切なシステム開発を行うための方法を探求する - PowerPoint の技術を学ぶ - 自ら情報を収集し、分析したうえで PowerPoint にまとめ、発表を行う - 課題研究の成果についてまとめ、発表を行う
	11	7 探究③ VBA と Python の違いについて考える	
	12	8 プレゼンテーション	
		9 まとめ	
	1		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考查の割合は以下の通り。 知・技（考查9割、考查外1割） 思・判・表（考查6割、考查外4割） 主体的（考查外10割） 定期考查の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考查の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
	3 課題提出	○	○	○
留意事項	教材は授業の中で提示します。			

【商業科】

課題研究（情報探究）

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	ガイダンス	- この講座で、課題を発見し解決策を探究することを学ぶ - ITの基礎となる数学からPCの仕組み、アルゴリズム、セキュリティ、ネットワーク、データベースまで、IT技術に関しての知識を習得する - コンピュータの誕生から現在まで、そして今後、技術がどう進化していくのかを探究する
	5	テクノロジー系（IT技術）	
	6	探究① IT技術の変遷について考える	
前期 期末	7	マネジメント系（IT管理）	- システムやソフトウェア開発プロジェクトのマネジメント方法について、開発の手法や流れ、プロジェクトの管理方法、システム監査の概要や流れなどの知識を習得する - 様々なビジネスシーンにおける課題を見つけ、その解決に向けた最適なシステム開発について探究する
	8		
	9	探究② 最適なシステム開発を考える	
後期	10	ストラテジ系（経営全般）	- 企業活動や法務、経営、企業のシステム戦略について、経営の基本から知的財産権、個人情報保護などの法務や、経営戦略やマーケティングに関する知識を習得する - 知的財産権の保護に関する事例を調べ、その諸問題について探究する - 課題研究の成果についてまとめ、発表を行う
	11		
	12	探究③ 知的財産権の保護について考える	
	1	まとめ	

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	この授業では、常に知的好奇心を持ち、自ら進んで探究活動に臨む姿勢が大切です。 また、教材については、授業の中で提示します。			

【商業科】

ビジネス・マネジメント

履修学科	商業科（進学ライセンスコース）
履修学年	第3学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	ビジネス・マネジメント（東法）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	ガイダンス 第1章 ビジネスとマネジメント 第1節 マネジメントの役割 第2節 イノベーションの重要性	・企業に発展や利益をもたらすマネジメントやイノベーションについて学び、具体的にどのようなものがあるか調べよう。 ・企業の発展に寄与した創業者や経営者の理念について学び、理念を受け継ぐことの意義を考えよう。 ・外部環境の変化が企業のマネジメントに影響をもたらしている現状について考えよう。 ・企業の組織形態について学ぼう。 ・経営理念や経営戦略について学び学ぼう。
	5	第3節 創業者や経営者の理念	
	6	第4節 ビジネスにおける外部環境の影響 第2章 組織のマネジメント 第1節 組織の形態 第2節 経営理念と経営戦略	
前期 期末	7	第3節 企業間連携と事業構造の再構築 第3章 経営資源のマネジメント	・企業間連携や事業の再構築を学び、その効果を考えよう。 ・企業の経営資源にはどのようなものがあるか学ぼう。また、それぞれの経営資源を適切に組み合わせるためのマネジメントについて、基礎知識を学び、課題を考えよう。
	8	第1節 経営資源の種類と最適化 第2節 人的資源のマネジメント	
	9	第3節 物的資源のマネジメント 第4節 財務的資源のマネジメント	
後期	10	第5節 情報的資源のマネジメント 第4章 企業の秩序と責任 第1節 企業統治（コーポレート・ガバナンス）	・企業が継続的に活動するうえで重要な企業統治について、基礎知識と考え方を学ぼう。 ・企業がかかえるリスクにはどのようなものがあるか学び、適切なリスク・マネジメントについて考えよう。 ・企業の社会的責任にはどのようなものがあるか学ぼう。企業が秩序を維持し、社会的責任を果たしていくための具体的な活動について学び、その重要性を考えよう。 ・ビジネスの展開・創造、地域産業振興、プロジェクト、起業などについて学び、ビジネスアイデアを提案しよう。
	11	第2節 リスク・マネジメント 第3節 企業の社会的責任	
	12	第5章 ビジネスの創造と展開 第1節 ビジネスの創造の意義と課題	
	1	第2節 プロジェクト管理 第3節 起業の意義と手続き	
		まとめ	

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・より効率的に組織の目標を達成するために、必要なマネジメントとは何でしょうか。この授業を通して、ビジネスの視点で学んでいきます。 ・学習到達度測定の一環として、2月に全商商業経済検定（ビジネス・マネジメント）を受験します。			

【商業科】

グローバル経済

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	3単位
教科書	グローバル経済（実教）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	第1章 グローバル化が進展する社会	・グローバル化と国際化の違いを理解し、グローバル化の進展によって世界や社会がどのような影響をうけ、変化しているのかを学習しよう。 ・現在では多くの企業が、国境を越えてグローバルに経営を行っている。グローバル経営に関する基本的な考え方、現状と課題について学ぼう。
	5	第2章 経営のグローバル化	
	6		
前 期 期 末	7	第3章 経済のグローバル化	・経済のグローバル化によって、ヒト、モノ、カネ、情報という経済活動に欠かせない資源が世界規模で行き交っている。ヒト、モノ、カネ、情報のグローバル化についての基礎知識や、現状や課題について学習しよう。
	8		
	9		
後 期	10	第4章 市場と経済	・全ての経済活動の基礎となる市場の理論や、一国の経済活動を評価・分析する標準的な手法、及び政府の経済政策について学ぼう。
	11		
	12		
	1		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考查の割合は以下の通り。 知・技（考查9割、考查外1割） 思・判・表（考查6割、考查外4割） 主体的（考查外10割） 定期考查の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考查の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・私たちが利用する商品やサービスは、市場を通して企業のビジネス活動によって提供されています。そして、その企業活動は国境を越えてグローバル化が進んでいます。この授業を通して、グローバルな視点から社会や生活について考えていきましょう。			

【商業科】 原価計算

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	選択（進う）
履修単位	3単位
教科書	原価計算（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記	製造業で用いられる工業簿記について学ぶとともに、原価と原価計算の意味について学習します。
	5	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算	原価要素の分類について学び、材料費、労務費、経費の計算方法を学びます。
	6		
前期 期末	7	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 単純総合原価計算 月末仕掛品原価の計算 等級別総合原価計算 組別総合原価計算	部門別計算と製品別計算の違いを学習します。 個別原価計算と総合原価計算の違い学習し、予定配賦の計算の仕方や配賦差異について学習します。 等級別、組別、工程別の原価計算の方法について学習します。
	8	第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	発生段階における、減損、仕損のしよりについて学習します。
	9		
後 期	10	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引	製品の完成と販売に関連する記帳方法や工場会計が本社会計から独立している場合の記帳方法について学習します。
	11	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2） 原価差異の計算と分析	標準原価計算の意味と手続きについて学習し、原価管理に役立つ資料を作成します。 標準原価と実際原価の差額について分析するとともにその記帳方法について学習します。
	12	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算（その1） 第17章 直接原価計算（その2）	直接原価計算の意味を理解し、生産管理や利益計画に活かす方法について学習します。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・2年次に学んだ内容を実務に活かすことを考えながら、ゆっくり学習を進めていきます。 ・学習到達度を図るため、以下の検定試験を受験します。 全国商業高等学校協会主催 簿記実務検定 1級（原価計算）			

【商業科】 プログラミング

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	選択
履修単位	3単位
教科書	プログラミング（東法）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	オリエンテーション 第1章 情報システムの重要性 第1節 情報システムとプログラム	- 私生活や企業活動に、情報システムがどのように関わっているかを理解する。また、情報システムを実現するために、プログラミングがどのような役割を果たしているのか理解する。 - ハードウェアとソフトウェアについて理解し、関連する技術を身につける。
	5	第2節 情報システムの活用	
	6	第2章 ハードウェアとソフトウェア 第1節 ハードウェアの機能と動作 第2節 ソフトウェアの体系と役割	
前期 期末	7	第3章 アルゴリズムの表現技法とデータ構造 第1節 アルゴリズムの表現技法	- アルゴリズムについて理解し、関連する技術を身につける。 - 適切なアルゴリズムを考案する方法を考える。 - 手続き型言語のプログラミングについて理解し、関連する技術を身につける。 - 企業の活動を改善するためのプログラムを作成する。
	8	第2節 データ構造	
	9	第4章 手続き型言語のプログラミング 第1節 プログラミングの手順 第2節 データの入出力と演算 第3節 条件判定と繰り返し処理 第4節 配列の利用	
後期	10	第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システム開発の手順と手法 第2節 プロジェクト管理	- 開発手順、プロジェクト管理など、プログラムや情報システムを開発するために必要な知識や技術を身につける。 - 企業の活動を改善するために有効なプログラムや情報システムを開発する手順・方法を、実務に即して考える。 - 情報システムのユーザがどのような事を望んでいるのかをとらえ、情報システムの開発に活かせるような知識を身につける。 - アプリケーションを開発するために、オブジェクト型言語に関する基本的な知識や技術を身につける。
	11	第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習②	
	12	第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	
	1		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	プログラミングの知識技術だけではなく、自ら課題を見つけ解決しようとする姿勢を身に付けることによって、企業活動に貢献するための資質能力を育成することを目標とします。 学習到達度測定の一環として、以下の検定試験を一つの目標に学習活動を行います 9月 全国商業高等学校協会主催 情報処理検定（プログラミング）			

【商業科】

ネットワーク活用

履修学科	商業科（情報ビジネスコース）
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	ネットワーク活用（東法）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	オリエンテーション 第1章 情報技術の進歩とビジネス 第1節 ビジネスの変化 第2節 個人情報と知的財産の保護 第3節 関係法規とガイドライン	・情報技術の進歩による、ビジネス形態の変化を理解する。また、インターネットを活用したビジネスを展開する際の、注意点を具体的な事例を通して学び、必要に応じた活用方法を具体事例から考察する。 ・インターネットの仕組みなどを学習し、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点を理解する。また、ハードウェアやソフトウェアの種類や機能に関する知識を身に付け、インターネットを適切に活用できるようにする。
	5	第2章 インターネットと情報セキュリティ 第1節 インターネットの仕組み	
	6	第2節 ハードウェアとソフトウェアの導入	
前 期 期 末	7	第2章 インターネットと情報セキュリティ 第3節 情報セキュリティの確保	・インターネットを活用する際の情報セキュリティについて、理解する。 ・電子商取引において図形や静止画を活用できる編集方法などを理解する。また、企業情報の発信にむけた動画の取得・作成・編集方法を学ぶ。
	8	第3章 インターネットで情報を表現する手段 第1節 図形と静止画	
	9	第2節 動画の活用	
後 期	10	第4章 インターネットの活用 第1節 ウェブページの制作とデザイン	・企業がウェブページに対して求めていることを分析し、それをもとにウェブページを製作する方法について学び、実習を通して理解を深める。 ・電子商取引や電子決済の仕組みや、活用することの重要性について学ぶ。 ・インターネットを活用したビジネスを創造することの重要性について、具体的な事例を通して学ぶ。また、社会変化を踏まえたうえで、インターネットを活用したビジネスの考案について手法を理解し、実際にビジネスを考案し、発表活動を行う。
	11	第2節 ウェブページの制作	
	12	第3節 電子商取引と電子決済	
	1	第5章 ビジネスの創造 第1節 インターネットを活用したビジネス 第2節 ビジネスプランの考案	

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・ネットワークを活用してビジネスをおこなっていくために必要となる資質・能力を育成することを目標としています。			

【商業科】

アプリ開発と活用

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	オリエンテーション 第1章 プログラミングとは	・プログラミングの基礎を学び、数あるプログラム言語の中から実用的で学びやすいPythonの学習を行う。 ・上から順番に処理を行う順次処理と、条件によって処理を分岐させる選択処理を学ぶ。
	5	第2章 プログラムの作り方	
	6	第3章 順次処理	
		第4章 選択処理	
前期 期末	7	第5章 繰り返し処理	・同じ処理を繰り返し行う繰り返し処理と、複数の処理をまとめる関数の扱い方について学ぶ。
	8	第6章 複数のデータの扱い方	
	9	第7章 関数の定義	
後期	10	第8章 ライブラリの利用 ビジネスアプリの開発 オリジナルアプリの開発	・複雑な処理をあらかじめ利用できるライブラリの利用方法を学ぶ。 ・Pythonを使って、ビジネスにおける諸問題を解決するためのアプリケーションを作成する。また、問題点をアプリを活用することによってどのような効果があり、どう解決していくのかを考察する。
	11		
	12		
	1		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・ネットワークを活用してビジネスをおこなっていくために必要となる資質・能力を育成することを目標としています。			

【商業科】 ビジネス総合

履修学科	商業科
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	オリエンテーション	・オリエンテーションでは、社会人としてのパソコンによる文書作成の重要性、必要性について学習します。 ・タイピングでは、タッチタイピングを身に付け、正確に打てるよう練習をします。 ・文書作成実習では、ビジネス文書の作成方法を学習します。
	5	タイピング実習	
	6	文書作成実習	
前期 期末	7	機械・機械操作	・文書作成ソフトにおける操作方法、用語を学習します。 ・ビジネス（企業）における各種文書の内容、作成に関わる知識を学習します。
	8		
	9	文書の種類・作成	
後期	10	プレゼンテーション	・プレゼンテーション（発表）を行ううえでの、準備・作成方法・発表の仕方を学習します。 ・文書を作成する者として知っておきたい、日本語の知識を学習します。 ・1年間の総復習として、習得した技術・知識を確認し、個々のレベルに合わせて、問題演習を行います。
	11		
	12	ことばの知識	
	1	総合演習	

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 前期期末 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・ビジネスマンにとって必要不可欠な文書の作成方法、作成にあたって知っておきたい日本語の使い方を学習します。 ・パソコンでの実習が主となりますが、教室での座学を行うこともあります。 ・学習到達度測定の一環として、以下の検定試験を一つの目標に学習活動を行います 7月、11月 全国商業高等学校協会主催 ビジネス文書実務検定試験			

【美術科】

素描

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	〈静物デッサンⅠ〉 静物デッサン 形・明暗・材質・空間の理解	- 基本形態の理解を深める。 - 様々なモチーフの形体や材質や関係性、空間などを意識しながら描く。
	5		
	6		
前期期末	7	〈石膏デッサン〉 石膏像（胸像） 形・明暗・空間の理解	- 石膏像を注意深く観察し、構図や形、明暗、材質といった要素を総合的に学ぶ。 - 与えられたモチーフを構成し、時間内にデッサンを仕上げる。
	8	〈構成デッサン〉	
	9	自画像	
後期中間	10	〈静物デッサンⅡ〉 静物デッサン 形・明暗・材質・空間の理解	- 様々なモチーフの形体や関係性、空間などを意識しながら描く。 - 材質の違うモチーフをよく観察してデッサンを仕上げる。
	11		
	12		
後期期末	1	〈人物デッサン〉 人体の理解 構図・プロポーションの理解	- 人物モデルをスケッチすることで人体の構造の理解を深める。 - 構図やプロポーション、動きなどを意識しながら描く。 - 与えられたモチーフを構成し、時間内にデッサンを仕上げる。
	2	〈構成デッサン〉	
	3	手	

評価の割合	課題評価と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	なし 評価は4回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査			
留意事項				

【美術科】

鑑賞研究

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	6単位
教科書	美術3

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	応用演習Ⅰ ※領域を選択 美術領域応用（洋画・日本画・版画） デザイン領域応用（デザイン応用Ⅰ） 総合造形領域応用（塑像応用Ⅰ） 映像領域応用	- 洋画・日本画・版画技法や表現方法を研究し、課題作品を制作します。 - デザイン領域における課題作品を制作し、プレゼンテーション発表を体験します。 - 立体に対する観察力を深め基礎的な造形力と創造的な感覚を養います。 - 映像作品を制作し、プレゼンテーション発表します。
	5		
	6		
前期期末	7	応用演習Ⅱ ※領域を選択 美術領域応用（洋画・日本画・版画） デザイン領域応用（デザイン応用Ⅱ） 総合造形領域応用（塑像応用Ⅱ） 映像領域応用	- 洋画・日本画・版画技法や表現方法を研究し、課題作品を制作します。 - デザイン領域における課題作品を制作し、プレゼンテーション発表を体験します。 - 立体に対する観察力を深め基礎的な造形力と創造的な感覚を養います。 - 映像作品を制作し、プレゼンテーション発表します。
	8		
	9		
後期中間	10	応用演習Ⅲ ※領域を選択 〈課題研究①〉 美術領域の技法研究 デザイン領域の技法研究 総合造形領域の技法研究 映像領域の技法研究	- 美術領域、デザイン領域、総合造形領域、映像領域における表現・技法等を研究し、独自の表現を追究します。 - 作品を卒業制作展で発表します。
	11		
	12		
後期期末	1	応用演習Ⅳ ※領域を選択 〈課題研究②〉卒業制作展まとめ ポートフォリオの完成	- 作品の鑑賞・講評から各専攻実習を振り返ります。 3年間の作品及び活動記録をポートフォリオとして完成させます。 - 作品を卒業制作展で発表します。
	2		
	3		

評価の割合	課題評価と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	なし 評価は4回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査			
留意事項				

【美術科】

グラフィック応用

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	選択 ※素描応用・クラフト
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	I.デジタルコンテンツ制作の仕事 ・デザイナーの仕事	デジタルコンテンツ制作の現場における実際のワークフローに準じ、仕事の内容や注意点などを理解する。 また、Adobe 社製のソフトウェアや、PowerPoint 等のソフトウェアを使用し、コンテンツ企画～デザイン～プレゼンテーションまでを行う。
	5	・グラフィックデザインと制作ワークフロー	
	6	・コンセプトとターゲット ・コンテンツプランニング ・デザインキャンプ、企画書制作	
前期期末	7	II.デザイン制作(1) ・PhotoShop について	Adobe PhotoShop を使用した画像加工について学び、デジタル画像を利用した作品制作を行う。 併せてポートフォリオやレイアウト等の課題を行い、デザインについての応用力を身に付ける。
	8	・画像加工の基本操作	
	9	・デジタルコラージュ課題 ・平面レイアウト課題(1) ・ポートフォリオ課題(1)	
後期中間	10	III.デザイン制作(2) ・タイポグラフィについて	II で学習した内容を更に発展させ、文字組みを意識した平面デザインや、デジタルデバイス上での UI デザインについて学ぶ。
	11	・UI デザインについて	
	12	・UI デザイン課題 ・平面レイアウト課題(2) ・ポートフォリオ課題(2)	
後期期末	1	IV.デジタルを用いたデザインの広がり ・Web デザイン、ゲームデザイン	自らがデザインしたものをレーザーカッター等で実際に形にすることを体験し、デザインをどのように社会で生かしていくことができるのかを考える。
	2	・デジタルファブリケーション (レーザーカッター、3D プリンタなど)	

評価の割合	課題評価と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	なし 評価は4回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
留意事項		○	○	○

【美術科】

クラフト

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	選択 ※素描応用・グラ応
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	〈オリエンテーション〉 陶芸・染織について	・各工芸分野の基礎技法を経験する。
	5	〈基礎演習Ⅰ〉 陶芸基礎：手びねり技法 等	
	6	染織基礎：絞り染め技法 等	
前 期 期 末	7	〈基礎演習Ⅱ〉 陶芸基礎：電動ろくろ技法 等	・各工芸分野の基礎技法を習得し、課題作品を制作する。
	8	染織基礎：ステンシル・糊染め技法 等	
	9		
後 期 中 間	10	〈応用演習Ⅱ〉 陶芸応用：手びねり技法 電動ろくろ技法 等 染織応用：絞り染め技法 ステンシル・糊染め技法 等	・各工芸分野の応用技法を追究し、オリジナル作品を制作し発表する。
	11		
	12		
後 期 期 末	1		・作品の鑑賞・講評から工芸分野の理解を深め、作品等をポートフォリオにまとめる。
	2		
	3		

評価の割合	課題評価と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	なし 評価は4回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項				

【美術科】

素描応用

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第3学年
履修形態	選択 ※クラフト・グラ応
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	〈素描演習Ⅰ〉※各自の課題を設定 石膏デッサン 静物デッサン 静物着彩	- 基本形態の理解を深める。 - 形や空間を正確に描写し、明暗による立体的な表現を学ぶ。
	5		
	6		
前期 期末	7	〈素描演習Ⅱ〉※各自の課題を設定 石膏デッサン 静物デッサン 静物着彩	- 構図や形、明暗、材質といった要素を総合的に学ぶ。 - 与えられたモチーフを構成し、時間内にデッサンを仕上げる。
	8		
	9		
後期 中間	10	〈素描演習Ⅲ〉※各自の課題を設定 石膏デッサン 構成デッサン 静物着彩	- 様々なモチーフの形体や関係性、空間などを意識しながら描く。 - 材質の違うモチーフをよく観察してデッサンを仕上げる。
	11		
	12		
後期 期末	1	〈素描演習Ⅳ〉※各自の課題を設定 石膏デッサン 構成デッサン 静物着彩	- 構図やプロポーション、動きなどを意識しながら描く。 - 与えられたモチーフを構成し、時間内にデッサンを仕上げる。
	2		
	3		

評価の割合	課題評価と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	なし 評価は4回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項				

【家庭科】

保育実践

履修学科	普通科・保育コース
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	(第1章) 子どもの表現活動と保育	・児童施設について学び、見学を通し施設の役割を理解する。 ・幼児と一緒に野菜の苗植えを行い、異年齢の子どもの発達を観察する。 ・年中行事について理解し、それに関わる行事の由来や意味を学ぶ。
	5	・オリエンテーション	
	6	・児童福祉施設見学	
	6	・実習（サツマイモ栽培）	
前 期 期 末	7	・子どもと年中行事	・幼稚園と保育所（園）の違いを理解する。 ・教育者としての心構えを理解する。 ・幼児との実習を通し行事の由来を理解する。 ・日常生活でのマナーを身につける。
	8	・第3章) 保育の活動計画と実習	
	9	・幼稚園、保育所（園）の特性	
	9	・実習	
後 期	10	・子どもの表現活動①（身体表現・リトミック）	・収穫したもので調理を行い、食を通し子どもの食生活の現状を理解するとともに、自己の食生活を見つめ、食事の持つ意味を考える。 ・現代の食生活の問題点について考える。 ・サツマイモの収穫を乳幼児と行う。 ・親の役割を知り、現在の親子関係についての問題点を学ぶ。 ・障害のある子供への理解。 ・子どもの健全な遊びや表現活動を支える代表的な施設を取り上げ、その意義と活用について理解する。
	11	・保育教材制作	
	12	・親子関係について	
	1	・障害児と健常児について	
後 期	1	・子どもの表現活動②（劇あそび）	

評価の割合	課題評価（考査含む）60％ 観点別 40％			
考査の実施	前期中間・期末・学年末 評価は4回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 表現力	主体的に学ぶ姿勢
	1 授業態度	○	○	○
	2 課題提出		○	○
	3 発表	○	○	
留意事項				

【保育】 絵画造形

履修学科	普通科・保育コース
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	・オリエンテーション ・造形の技法 ＊切る、貼る、書く	幼児の発達成長に即した保育実践の力を獲得するため、実習を通して想像力を身に付ける。 ・造形に必要な基礎知識を身に付ける。 ・ハサミなどの道具の使い方を知る。 ・子どもの発達段階と絵の特徴を知る。
	5	＊折る、編む、絵画技術 他	
	6	・子どもの描画活動	
前 期 期 末	7	・描画、造形材料の技法 ＊粘土	・描画素材の体験をし、使用する道具や材料の特徴を知り、使い方を学ぶ。 ・壁面に貼る製作物の特徴を知り、製作する技術を身に付ける。
	8	＊絵具	
	9	＊クレヨン 他 ・壁面制作の技術	
後 期	10	・立体作成・・・・・・①	・立体造形の基礎理解と実践を通して創造性感性を育てる。 ・保育の現場で利用される造形物を作成する技術を身に付ける。 ・立体造形的な環境構成について学ぶ。 ・空間を想定し、吊るす、置くなどの配置条件を考える。
	11	・造形作品作成	
	12	・立体作成・・・・・・②	
	1	・集団、個人製作	

評価の割合	考查点／課題評価点 60% 観点別 40%			
考查の実施	前期中間・前期末・学年末 評価は4回（前期期末・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 表現力	主体的に学びに向 かう姿勢
	1 授業態度	○	○	○
	2 課題提出		○	○
	3 発表	○	○	○
留意事項				

【教養】 未来創造基礎

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第3学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	未来を考える。（国際理解・マナー・常識） 社会で役立つ知識や技能を身につける。 ・文章の読み、書き	・自分の将来の進路について具体的に考える。 ・日常使う言葉やマナーを学ぶ。 ・身近な話題に興味を持ち、自分の考えを持つ姿勢を養う。
	5	・マナーと礼法	・マナーについて。
	6	・国際理解 ・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。	・他国の習慣や文化を学ぶ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる。
前期 期末	7	仕事に必要な知識や技能を身につける。 ・文章の読み、書き	・日常使う言葉やマナーを学ぶ。
	8	・マナーと礼法	・マナーと礼法を身につける。
	9	・国際理解 ・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。	・社会人に必要なマナーを身につける。 ・他国の習慣や文化を学ぶ。 ・適切な論理を使った文章を書けるようになる。 ・文章を論理的に読んで自分の意見を持つ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる。
後期 中間	10	未来を考える。 ・様々な職業（職種や職業について）知る。 仕事に必要な知識や技能を身につける。	・日常使う言葉やマナーを学ぶ。 ・身近な話題に興味を持ち、自分の考えを持つ姿勢を養う。
	11	・マナーと礼法	・マナーについて。
	12	・国際理解 ・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。	・他国の習慣や文化をまとめる。 ・適切な論理を使った文章を書けるようになる。 ・文章を論理的に読んで自分の意見を持つ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる。
後期 期末	1	社会で役立つ知識や技能を身につける。 ・文章の読み、書き	・マナーと礼法を身につける。
	2	・マナーと礼法	・社会人に必要なマナーを身につける。
	3	・国際理解 ・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。	・他国の習慣や文化を発表する。 ・適切な論理を使った文章を書けるようになる。 ・文章を論理的に読んで自分の意見を持つ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる

評価の割合	各観点を平均する。			
考査の実施	中間考査・前期期末・学年末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断 表現	主体的に取り組む 態度
	1 授業態度		○	
	2 出席状況			○
	3 課題提出		○	○
	4 レポート・小テスト	○	○	
留意事項	追試については定期考査期間中に行う。			

【未来創造応用科目】

未来創造応用 D

(ものづくり領域)

履修学科	普通科未来創造コース
履修学年	第3学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	・オリエンテーション	- ものづくり（クラフト）の仕事を理解する。 - 各工芸分野（陶芸・七宝・選択）の基礎技法を体験しものづくりの楽しさを味わう。
	5	・ものづくり（クラフト）の仕事とは	
	6	・〈クラフト体験Ⅰ〉 ※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
前 期 期 末	7	・工房見学 仙台の伝統工芸	- ものづくりに関する工房や施設を見学し、ものづくりの歴史や伝統的な技法について理解する。 - 各工芸分野（陶芸・七宝・選択）の基礎技法を習得し、課題作品を制作する。
	8	・東北生活文化大学との連携Ⅰ 工房見学	
	9	・社会に広がるものづくりのデザインについて ・クラフト体験Ⅱ ※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
後 期 中 間	10	・伝統・現代工芸展鑑賞	- ものづくりに関する展覧会等を見学し、ものづくりの歴史や伝統的な技法について理解する。 - 各工芸分野（陶芸・七宝・選択）の基礎技法を習得し、課題作品を制作する。
	11	・東北生活文化大学との連携Ⅱ 体験授業	
	12	・クラフト体験Ⅲ ※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
後 期 期 末	1	・工房見学Ⅰ 仙台の伝統工芸	- ものづくりに関する展覧会等を見学し、ものづくりの歴史や伝統的な技法について理解する。 - 自分たちが制作した作品の鑑賞・講評からものづくりの楽しさをあらためて味わう。 - 現代におけるものづくりの役割を理解する。
	2	・クラフト体験Ⅳ	
	3	・※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
		・作品鑑賞と講評会 ・まとめ 現代におけるものづくり（クラフト）の役割について	

評価の割合	各観点を平均する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度		○	○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項				

【教養】

未来創造応用 D

(ビューティー領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 3 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・カット実習 ・スタイリング実習（ブロー、アイロン） ・セッティング技術（三つ編み、編み込み） ・メイクアップ技術（ナチュラルメイク）	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。
	5		
	6		
前期 期末	7	・浴衣着付け ・ヘアアレンジ実習 ・ネイル技術	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。
	8		
	9		
後期 中間	10	・ワインディング技術 ・美容の社会貢献活動 ・エステティック技術（ハンドエステ）	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。
	11		
	12		
後期 期末	1	・ヘアカラー実習 ・まつ毛エクステンション技術 ・流行メイク演習	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。また、学んだことを今後の進路に役立てる。
	2		

評価の割合	課題評価と観点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査			
留意事項				

【教養】

ファッション領域

履修学科	普通科（未来創造コース）
履修学年	第2学年、3学年
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	・オリエンテーション・職業について ・布を作るとは ・流行とはなにか ・接客販売と消費者の心をつかむには	・職種の紹介（ファッションに関わる仕事）。 ・流行の流れについて知り、ファッションへの影響を理解する。 ・販売戦略と消費者心理について知る。
	5		
	6		
前期期末	7	・制服ができるまで関わる仕事 ・SDG s とは	・服ができるまでの行程を理解し、制作するまで関わる仕事について知る。 ・SDG s を理解し、単に利益重視ではいけないということを学び、実践する。
	8		
	9		
後期中間	10	・デザイン ・アクセサリーとアパレル ・メガネとアパレルについて ・パーソナルカラーを知る	・ファッション誌・HP・SNSでどのように宣伝するのかを理解する。 ・衣服だけではアパレルは成り立たないということを知り、アクセサリーの種類などを知る。 ・フレームの形・色・男女別・年齢別による合わせ方を理解する。 ・色について知り、職業に生かすための目を養う。
	11		
	12		
後期期末	1	・VMD ・小物制作 ・ペーパードレス制作	・VMD という職種を知り、演習する。 ・まとめ
	2		
	3		

評価の割合	考査70% 観点別30%			
考査の実施	授業の中で実施（2回） 評価（2年生：前期中・前期末・後期中・後期期末）…4回 （3年生：前期中・前期末・後期期末）……………3回			
観点別の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度	○	○	○
	2 課題・作品		○	○
	3 レポート	○	○	○
留意事項				

【教養】

未来創造応用 D

(ミュージック領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第3学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・オリエンテーション	興味がある分野の仕事について調べる
	5	・音楽が関わっている仕事について	医療・福祉・保育などの現場で活躍している仕事、また癒しとしての音楽の世界を学ぶ
	6	・音楽療法等について(外部講師)・講話と実践 ・ヴォーカル（実技） ・鑑 賞 ・小テスト	映画の世界での音楽の役割を学び、映画音楽が作られる流れを知る。
前期 期末	7	・表現すること、について（外部講師） ・講話と実践	エンタテインメントの世界からミュージックのかかわりを考える。 ミュージカル映画を通して舞台裏を学ぶ
	8	・鑑 賞	
	9	・キーボード（実技） ・楽 典 ・前期のまとめ	楽典の基礎を学ぶ
後期 中間	10	・キーボード(実技)	童謡の弾き歌いや連弾を体験する。
	11	・ミュージカルができるまで	ホール等の施設や舞台裏の見学 ミュージカルに関わる様々な仕事を学ぶ。
	12	・ギター／ヴォーカル／ドラム（実技）	身近な楽器の体験をする。
後期 期末	1	・日本のポピュラー音楽の歴史を学ぶ	歌謡曲～J-POP までの流れを知る。
	2	・一年間のまとめ	
	3		

評価の割合	課題、レポート、小テスト、平常点を総合的に評価する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 出欠状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 提出課題等	○	○	○
	5 小テスト	○	○	○
留意事項				

【未来創造応用】

未来創造応用 C

(自動車領域)

履 修 学 科	普通科未来創造コース
履 修 学 年	第3学年
履 修 形 態	選 択
履 修 単 位	2単位

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	自動車の魅力と職業	自動車に携わる様々な職業と職業間について学ぶ 自動車についてのおおまかな分類等について学ぶ 自動車整備について知り、エンジン及び補器類についての知識を座学で学び、花壇自動車大学校において実車を用いて観察等行う。 汎用エンジンの分解等を実習する。
	5	自動車の種類と概要	
	6	エンジン 補器類	
前期 期末	7	ハイブリッド	エンジンとモーターそれぞれの特性について知り、ハイブリッドの仕組みについて学ぶ。 オイル、冷却水、タイヤについて各役割ごとに分割して学習し、座学で学んだ事を元に実車を観察、分解して理解を深める。
	8	オイルと冷却水	
	9	タイヤ	
後期 中間	10	ブレーキ	ブレーキ、サスペンションの各役割を分割して学習する。座学で学んだ事を元に実車を観察、分解して理解を深める。 様々な点検整備について実習する。 ガソリン車以外の車両について学び、触れてみる。
	11	サスペンション	
	12	日常点検・定期点検・車検 オートバイ 電気自動車・燃料電池車	
後期 期末	1	先端技術・自動運転 自動車総合	自動運転をはじめとする先端技術について学び、実車に触れ観察を行う。
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
平常点の評価 (40点)	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 レポート	○	○	○
	2 試 験	○	○	
	3 座 学	○	○	○
	4 実 技	○	○	○
留意事項	・花壇自動車大学校に移動する際には工具、つなぎ、i p a dを持参し時間を厳守すること ・工具、つなぎについては実技が始まるときに配布します。 ・つなぎは最後に返却する際、洗濯をしたたんで返却すること ・レポートは提出期限を厳守すること			

【家庭科】

食物探求

履修学科	普通科（未来創造コース）
履修学年	第1学年 2学年 3学年
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	オリエンテーション	・「食」に関する学びやそこからつながる職業について学習する授業であることを理解する。 ・食物に含まれる栄養素の種類と働きについての知識を習得する。
	5	食に関する仕事に必要な知識	
	6	栄養学とは	
前期 期末	7	食に関する仕事・資格	・「食」に関する仕事や資格にはどのようなものがあるのかを理解する。 ・調理をする際に使用する材料や道具、下準備などの基本的なことを理解し、実習に取り組む。
	8	食に関する職業理解	
	9	食品衛生・実習	
後期 中間	10	地元の食についての学び （フードマイレージ・郷土料理・農業）	・日本をはじめ、世界の食べ物の歴史と文化を知る。 ・乳幼児から高齢期まで、各ライフステージ毎の体の状態を理解し、その時に必要な栄養の特徴、食生活上の留意点などを知り、実習などを通して理解を深める。 ・具体的な職業について理解を深める。
	11	アレルギー対応食品	
	12	食に関わる仕事（サービス・店舗）	
後期 期末	1	調理の技術（調理実習）	・調理の技術を習得する。 ・食品販売の際の陳列や接客の仕方を学び、実践・体験をする。
	2	食事環境の整備（コーディネート・花）	
	3		

評価の割合	考査 70% 観点別 30%			
考査の実施	授業の中で実施（2回） 評価（1年生：前期末・後期中・後期末）…………… 3回 （2年生：前期中・前期末・後期中・後期末）… 4回 （3年生：前期中・前期末・後期末）…………… 3回			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 発表・実技	○	○	
留意事項				

総合的な探究の時間

「進路・探究・表現学習」

履 修 学 科	普通科、美術・デザイン科
履 修 学 年	第3学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	1単位
テ キ ス ト	小論文を書くための基礎知識 BOX 一般常識&SPI 対策ワーク

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○進路学習	・進路部長講話、クラス面接指導 ・就職講習、就職ガイダンス ・看護医療講習、大学短大入試説明会
	5		
	6	○探究学習 ○表現学習	・探究課題フォームの作成 ・【使用教材】小論文を書くための基礎知識 BOX
前期 期末	7	○進路学習	・就職ガイダンス ・看護医療講習、高大連携模擬授業、社会人マナー講座
	8	○探究学習	・探究課題フォームの作成
	9	○表現学習	・【使用教材】小論文を書くための基礎知識 BOX
後期 中間	10	○進路学習	・【使用教材】一般常識&SPI 対策ワーク
	11	○探究学習	・探究課題フォームの作成
	12	○表現学習	・【使用教材】小論文を書くための基礎知識 BOX
後期 期末	1	○探究学習	・探究課題フォームの提出

評価の割合	所見による評価			
考査の実施	な し			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・理解	思考力・判断力 表現力等	主体的に学習に 取り組む態度
	1 授業態度	○	○	○
	2 出席状況			○
	3 探究学習の成果	○	○	○
	4 表現学習の成果	○	○	○
留意事項	・進学希望者と就職希望者にわかれる。 ・学習計画は、進路状況によって実施時期や内容を変更する場合があります。			